

夢アイデア企画書

アイデア

自治会の一組織として垣根剪定隊設置を

背景

身近な地域における実質無管理状態の垣根剪定に関するアイデアなのですが、民地の庭木や垣根の枝葉が伸び放題、公共地の下水管理設地や戸建て住宅団地階段の両脇の草木が伸び放題なのを今年ほど見聞した時はない。原因としては周知のように今年の異様な長梅雨のほか、二十万年周期の地球温暖化曲線のピークにあることからくる異常気象によると語られているが、放置しておくわけにはいかない。

何故か、それは、膨らんだ垣根を避けるために人や自転車、バイクなどが道路の真ん中に寄るために事故に遭いやすいとか、バイクや自転車に乗っていて運転者の身体が引っかかって傷を負ったり、転んだりしかねないからである。そうした垣根のほとんどは空き家であったり、超高齢者世帯のために気付かずにいたり、あるいは知っていても放置状態に置かれているケースが多いのである。

方法

まずは所有者や管理者に連絡を入れて整備を促すことである。それも今年ほどの長梅雨があると一年に三度四度やらなければ済まない。が、いずれにしてもすぐに行われるケースはほとんどないのが実態である。まさかこちらの費用で全てすっかりやって後日支払ってもらうことなどできにくい。公共性のあるところのものでも予算の都合上、一年に何度も出来ないというのが実態である。

そこで登場するのが町内会あるいは自治会の一組織としての垣根剪定隊である。防災や防犯の類ではすでに一組織として存在するのがほとんどであり、車で巡回しながら注意を呼びかけたり、警察と連携して掲示板設置などしているが、垣根の場合はそれでは不十分で、すぐそこに見える具体的な事故を未然に防ぐための措置を実施する実働部隊が必要とされるのである。

具体的に活動に入るためには、まず自治会広報で剪定隊の存在の周知を図っておき、今年のように春先や梅雨のあと、晩秋の三回は最低巡視して道路側にかなりのはみ出しが見られるようなら、あるいはまた一部の枝が伸びていることによる事故回避のために必要と認められるようならその旨

連絡をまず入れ、しばらくたっても行われないうなら、了解を得て、あるいはあらかじめ周知している最低限の剪定作業を実施するということになる。

剪定隊には景観やバランス保持の視点から経験あるものが加わっている必要がある。脚立や剪定ばさみ等器具の準備や作業後の清掃、ゴミ出しなども剪定隊が行うものとする。

成果

事故が無くなり、景観が保たれるなど実感できる安全安心なまちづくりにつながる。

人と人との対話が促進されるとともに役立つ自治会への認識が浸透し、町内会や自治会組織が活性化する。